

編集後記

編集委員を拝任し約1年が経過、任期は残り半分を切りました。今号から企画を担当した講座がスタートし、ようやく委員会の正式メンバーになれた気がしています。

このところ学会誌において編集委員会以外では、「核融合ベンチャー解説係」のような役割を担当することが多くなっています。これは、近年、数多く設立されている核融合関連企業の中でも最大手の米国・TAEテクノロジー社との関わりによるものです。TAE社は、「FRC」と呼ばれる磁場閉じ込め方式による核融合炉の実現をめざしており、ポストク時代に一時中断したものの、私も学生時代からこの方式を研究対象としてきました。FRCは、完全に直交するポロイダル磁場とトロイダル電流のみで配位が形成され、これがプラズマの熱圧力とつりあうことから体積平均ベータが100%に近くなる、いわば極限的なトラス配位です。

彼らと一緒に仕事をして最も印象的なのは、その研究・開発のスタイルです。装置設計・建設時に明確なタスクを

設定し、1～2年の実験で目標を達成すると装置は解体され、また1年ほどで次期装置を建設するという驚異的なペースで研究に取り組み、多数の革新的な成果をあげています。世界中から集まった170名を超える専任スタッフが一つの目標に向かって邁進する空気に、核融合研究の黎明期もこの様な雰囲気だったのではないかと、思いを馳せたりもします。

そういえば、1980年代に建設された当時としては最大のFRC装置「LSX」は、STI Optronicsという民間の企業により開発・研究されていました。STI社も、全員が核融合プロパーではないものの、130名を越すスタッフを抱えたベンチャー企業でした。当時からFRCという特異なコンセプトは、ベンチャー気質を持つ人々を惹きつけていたようです。TAE社との研究者の相互交流や学生の派遣などを通して、老成円熟しつつある(?)核融合業界にしながら挑戦的で刺激ある研究環境に身を置ける僥倖に感謝し、学生とともに今日も楽しく研究を行なっています。(浅井朋彦)

プラズマ・核融合学会 役員

会 長	森 雅博		
副 会 長	豊田浩孝 (推薦委員長: 学会賞, 男女共同参画委員長)	竹入康彦 (推薦委員長: 研究助成, 研究部会連絡会委員長)	
常務理事	下妻 隆 (総務委員長)		
理 事	浅野史朗 荒巻光利 大野哲靖 (企業展示検討委員長)	岸本泰明 (年会運営委員長)	
	木戸修一 (財務委員長)	小西哲之 坂本瑞樹 (編集委員長)	
	齊藤輝雄 篠原孝司 神野雅文 (企画委員長)		
	中井光男 長谷川晃 (広報委員長, 支部・地区研究連絡委員長)		
	和田 元 渡邊隆行		
監 事	利根川昭, 中村圭二		

プラズマ・核融合学会 領域長

基礎 荒巻光利 応用 豊田浩孝 核融合プラズマ 大野哲靖 核融合炉工学 小西哲之

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 坂本瑞樹(筑波大) 副委員長: 荒巻光利(日大)
エディタ: 酒井 道(滋賀県立大), 比村治彦(京都工繊大), 波多野雄治(富山大), 城崎知至(広島大), 藤田隆明(名大), 村上定義(京大)
編集委員: 浅井朋彦(日大), 有川安信(阪大), 池添竜也(九大), 諫山明彦(量研), 今寺賢志(京大), 岩田夏弥(阪大), 宇佐見俊介(核融合研), 大塚哲平(近畿大), 小川大輔(中部大), 乙部智仁(量研), 小柳津誠(量研), 桑原大介(中部大), 栗田弘史(豊橋技科大), 小林 真(核融合研), 齊藤誠紀(山形大), 齊藤晴彦(東大), 清水鉄司(産総研), 高橋和貴(東北大), 竹田圭吾(名城大), 田中宏彦(名大), 辻村 亨(核融合研), 時谷政行(核融合研), 松下恭子(東京理科大), 森田太智(九大), 安原 亮(核融合研), 山田大将(長野高専), 吉田雅史(山口大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第95巻第9号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2019年(令和元年)9月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspfor.jp URL: http://www.jspfor.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。